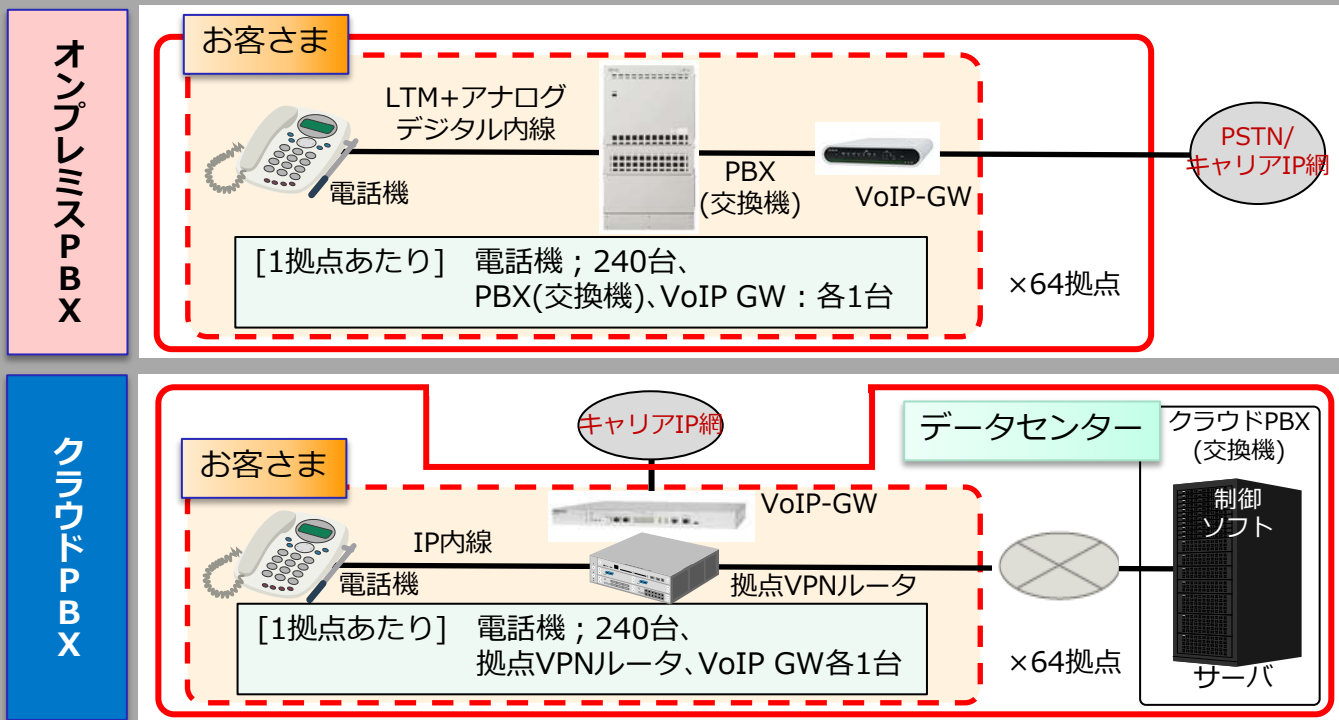


オフィス分散時、クラウドPBX導入により、オンプレミスPBX導入時と比べ環境負荷の低減が可能(CO₂排出量 37%低減)

■お客様の課題

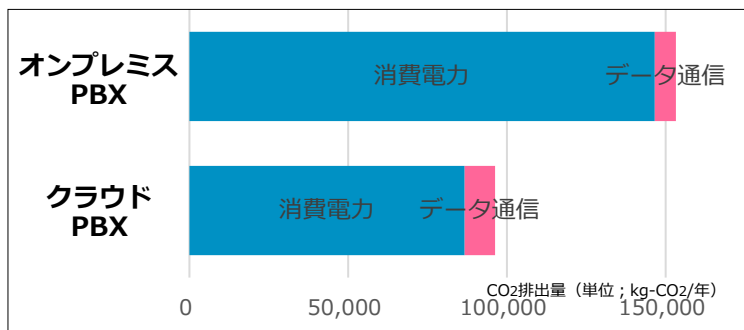
- ・常設するインフラ設備の消費電力量・設置スペースを低減したい。

■機能単位：15,360台の内線電話を使用する企業で、オンプレミスPBX適用時とクラウドPBX適用時の、各々1年間のCO₂排出量



■効果

- ・各拠点のPBX(交換機)が不要となり、企業内設備のエネルギー使用量が低減できます。
- ・クラウド型PBX(交換機)なら設置機器も少なく、スペースの低減が可能です。



CO₂排出量 57t-CO₂/年低減 CO₂低減率 37%

● 環境負荷低減要因

- ・クラウドPBX適用により各拠点のPBX(交換機)が不要となり、企業内設備のエネルギー使用量低減

● 環境負荷増加要因

- ・データセンターの活用による電力量の増加
- ・データセンターと拠点間のデータ通信量の増加

・環境負荷要因は評価条件や評価モデルにより値が異なります。
 ・本評価は、平成17年度情報通信技術(ICT)の環境効率評価ガイドライン(日本環境効率フォーラム平成18年3月発行)に準じて、2021年1月時点の情報で運用ステージを評価対象として関連するCO₂排出量を算定し比較しています。